

地域における自然エネルギーの循環利用への取り組みと

地域マネジメントに関する調査研究

～梶原町の地域循環型エネルギーシステムの取り組み事例から～

1120400 堀川 愛美

高知工科大学マネジメント学部

1 概要

2011年3月11日に起こった東日本大震災は、人々の記憶に新しい。この未曾有の震災で大きな被害を受けた福島第一原子力発電所で起こった出来事をきっかけに、現在日本ではエネルギーやその利用に対する意識が、今までとは大きく変わってきているように感じる。

そして、その意識の変化の中で特に注目されているエネルギーの一つに、「再生可能エネルギー」というものがある。

私はその「再生可能エネルギー」の中の風力・太陽光・木質バイオマス・小水力を中心としたエネルギー自給率の地域内100%を目指す梶原町の取り組み事例の詳細の分析を行い、こうした取り組みが地域へ及ぼす影響や、他市町村への波及実態およびその効果などを調査した。

2 背景

昨年起こった東日本大震災を、就職活動で東京に滞在していた筆者の堀川自身も体験した。その後ニュースなどで節電など、これまであまり意識したことのないエネルギー問題を目にするようになり、エネルギーに対して関心を持った。

そして、高知県でもエネルギーに対する取り組みはないのか、調査研究をしたいと考えた。

また、研究室で地域マネジメントについて学んでいるため、こうした自然エネルギーに対する取

り組みが地域に対してどのような影響を及ぼすのか、またこれを全国へ発信することができないか、そして現在発信している段階での他市町村への波及実態はどのようになっているのかを詳細に調査したいと考えた。

3、目的

本稿では、環境都市モデルにもなり、先駆的に取り組みを行い全国的に注目を集めている梶原町を中心に、現在の再生可能エネルギーの現状や課題、取り組みについて調査し、そのことが地域にどのような影響を及ぼすのかを分析する。

そして、それを参考に今後さらに全国的に再生可能エネルギーの利用の普及につなげる事ができないか、その方法を筆者なりに考え、高知県全体に提案を行うことが本稿の目的である。

4 研究方法

本稿では、再生可能エネルギーに対する既存の文献や公表資料、その他のデータから文献調査を行い、日本でのエネルギーの現状と取り組み、課題を調査する。そして、小水力発電に詳しい高知大学農学部農学科准教授佐藤周之先生にお話を伺い、地域での実態を調査する。また、実際に梶原町の矢野さんに直接的に聞き取り調査を行う。最後にこれらをもとに、自然エネルギーの利用を全国に普及させるための考察を行いたい。

5 結果

現在の日本のエネルギー自給率はウランを準国産であると考えた場合でも、16%と圧倒的に低い。このことが、日本が抱えるエネルギー問題の一番の課題であると考えられる。

つまり、今後は低廉であり安定的なエネルギーを、自分の国で生み出して供給させることが一番重要なのである。そのためには、現在すでに注目されている、環境にも優しい再生可能エネルギーを推進していかなくてはならない。

しかし、コストが依然として高く、供給の安定性にも問題があるため、なかなか発展していかないのが現状である。

そんな中でも、自然エネルギーを利用し、収益を得て成功している地域に梶原町があった。

梶原町は、活動のテーマを「新エネルギーの導入による地球温暖化防止への貢献と循環型の町づくり」として、町営風力発電所などを導入し、循環型の自然エネルギーシステムに取り組んでいる。主な活動としては、平成 11 年 10 月に、標高 1300m の四国カルストに町営の「梶原風力発電所」を建設。その風力の売電で得た収益の一部を、太陽光発電など CO₂ 排出削減設備・CO₂ 吸収源の設備の普及の推進などに充てることで、いっそうの新エネルギーの導入をはかっている。

また、上記の取り組みで採取した間伐材を利用し、木質バイオマスを製造し、その地域循環利用の取り組みも行っている。

6 考察

梶原町は、国の環境モデル都市となっており、多額の補助金を利用することで風力発電を導入している。そのことで生まれた収益を、さらに他の自然エネルギーの導入・普及させていることが分かった。

しかし、それ以外にも普及させた原因がある。

それは人々の意識の変化である。調査していく中で、やはりその地域の住民のエネルギーに対する意識の問題が、影響を及ぼす一番の要因であると分かったのである。

7 提案

分析検討の結果、梶原町のような自然エネルギー利用地域のシンボリック存在が普及に影響を及ぼすと考え、シンボリック地域を生み出すことを提案する。

政府などによる自然エネルギーに対する補助もさらに充実させ、自然エネルギーに積極的になってもらえる意識作りに積極的になるべきであると考ええる。

<参考文献・資料>

[1]内田洋司『研究ノート No.11 みんなで考えよう再生可能エネルギーの利用』。エネルギー情報研究会誌,2004年3月。

[2]全国小水力利用推進協議会『小水力発電事例集 2009・2010』小水力発電協議会, 2011年9月9日。

[3]宮崎真次/新美敏之他『ミツカン水の文化センター機関誌 水の文化 第39号』ミツカン水の文化センター,2011年11月。

[4]ゆすはら町ホームページ

(<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/>)

[5]資源エネルギー庁ホームページ

(<http://www.enecho.meti.go.jp/>)

<付記>

本研究に関して、現地での聞き取り調査などのインタビューにご協力いただきました梶原町役場環境推進課矢野準也さん、小水力発電に関しての聞き取り調査などのインタビューにご協力いただきました高知大学農学部農学科準教授佐藤周之先生に感謝申し上げます。ここに記して感謝の意を表します。